

Report from the EDGE

Nice to meet you

マッケンジー・ソープ初来日絵画展開催

期間中サイン会をはさんで数回、ソープさんの絵画の説明を通訳させて頂いた時の話です。読み書きがほとんどできなかった彼は、クラスメートにからかわれ先生からも杖で叩かれ、自信を失って行きました。そんな彼にとって、絵は、唯一の逃げ場所でした。レンガ職人だったおじいさんの鉛筆を借り、おばあさんの口紅やアイシャドーを使って、タバコの箱を広げて絵を描く時間が、彼の安らげる時でした。イギリスの中学卒業認定の国家試験も受からず、中学を卒業できませんでした。やっと見つけた造船所の職も、すぐに首になってしまいました。読み書きができないため何の資格も得られない彼は職を見つけることができません。そんな中、彼は自殺を企てました。

そんな状況から彼を救ってくれたのは、友人の勧めでくれた絵の道とおじさんがくれたたった2000円の授業



料でした。中学卒業の資格も取れなかった彼は、本来大学には入れないところでしたが、インタビューでこれまで描いてきた何千と言う絵を並べて、教官に認められ、大学入学を許可されました。

その後、画家として認められるまでは紆余曲折がありました。今では、日本に招待される画家になりました。そんな彼の描く絵は、一つ一つにメッセージが込められています。

(藤堂)

怠けてなんかない！

ディスレクシア—読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち。

品川裕香◎著

読み書きを苦手とするLD（学習障害）の代表ディスレクシア。子どもの心の叫び、明日を拓くエネルギーがここにほとばしる。個性を大切に考えるすべての保護者、教師、専門家、そしてLDに悩む本人に、この本を薦めます。

上野一彦氏
すいせん！

上野一彦（東京学芸大学副学長・日本LD学会会長）

国内外に在住の10人の本人と親に、ディスレクシアであることに気づいた経緯と苦悩、そして対処方法などについてのインタビューと、専門機関や学校で行われている最前線の指導方法や、アメリカの最新事情を紹介した一冊。

もくじ

- ◎第1章◎ ボクはどうして勉強ができないの？
さまよひ続けた暗い森の中で本人たちが見つけたひとすじの光
- ◎第2章◎ 読めない書けないは育て方がわるかったせい？
子どもの可能性を見つけるまで続く親の葛藤
- ◎第3章◎ ディスレクシアに対する現場の対応
現状で子どもたちを支援できる方法
- ◎付録 チェックリスト
相談機関連絡先リスト

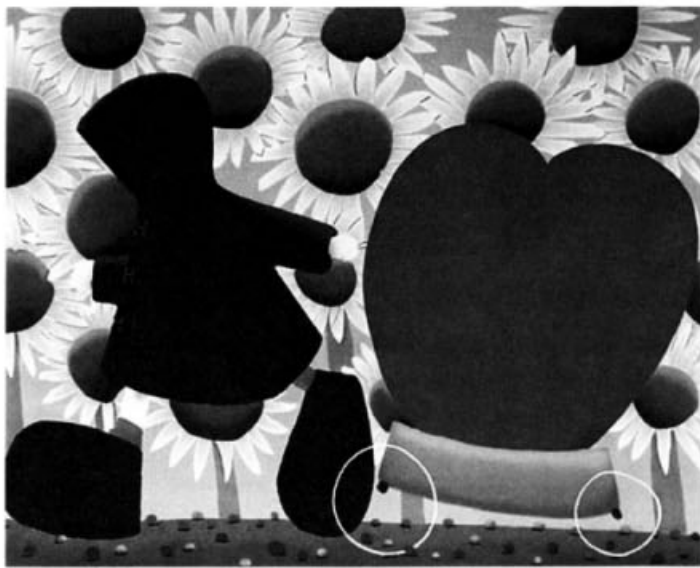
※四六版・ソフトカバー256頁

本体1,300円（税別）



岩崎書店

〒112-0005東京都文京区水道1-9-2 TEL03(3812)9131
[HP] <http://www.iwasakishoten.co.jp>



メッセージその1

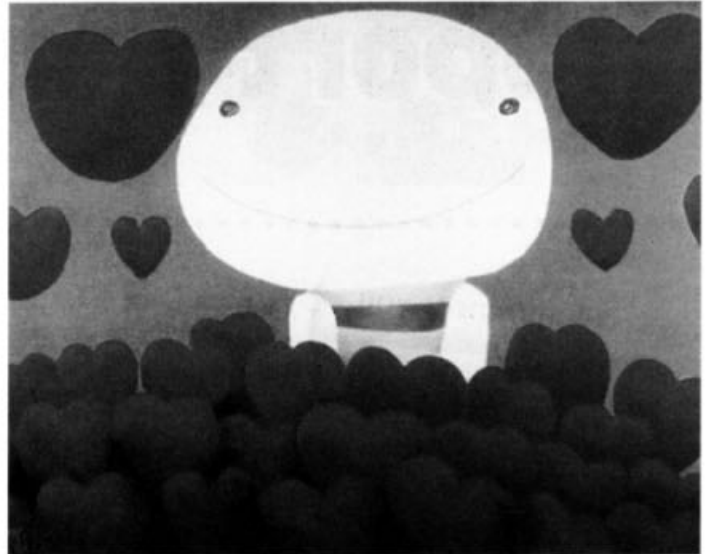
子どもは愛そのものである。愛をはこぶ人である。でもその愛は大人が見本で示してあげないと、子どもはどのように表現してよいか解らない。

子どもは、大人の気付かないところで愛の種を蒔いてくれるよ。大人は、彼らにちょっとしたきっかけを与えることでその愛を花咲かせることができるよ。

(写真 Bearer of Love)

メッセージその2

愛、希望、夢。この三つはいわば生きていくための三種の神器。それを彼は色彩で表現しています。愛は赤。希望は黄色。そして夢は青。どんなに暗いように見える絵でもどこかに黄色や赤が彼に絵の中に光っています。(写真 ALL is Love)



マッケンジー・ソープ展 報告

ディスレクシアの英国人画家のマッケンジー・ソープさんの初来日を期して絵画展を開催しました。ソープさんはこれまでアメリカ、ヨーロッパ各地で様々な慈善団体とともに活動しています。彼自身がディスレクシアであるがために苦しんだ経験と貧しかった頃の話伝えて多くの苦しんでいる子ども達に少しでもその苦しみに打ち勝つきっかけになればと望んでいます。子ども達とワークショップをしたり、絵画展の収益の一部を寄付しています。今回、NPO EDGEも収益の一部を寄付していただきました。ディスレクシアの啓発に役立てさせていただきます。

会場：丸善日本橋店 9月14日から20日
 ホテル・オークラ別館ロビー 9月20日から27日
 来場者数：丸善会場 計約3000人
 ホテル・オークラ会場 集計不可

掲載記事

ミセス9月号

DAILY YOMIURI 9月9日朝刊
 神奈川新聞 9月14日朝刊
 日本経済新聞 9月19日朝刊
 サンケイ 9月20日朝刊
 週刊朝日 グラビア 9月20日発売

後援

日本LD学会、全国LD親の会、日英協会
 東京小児科医会
 協力
 ホテル・オークラ

「愛をはこぶ人」キャンペーン

マッケンジー・ソープ氏の来日中、「愛をはこぶ人」キャンペーンでは9月18日に横浜ニューグランドホテルにてティーパーティー、19日に東京ホテル・オークラにてウェルカムレセプションを開催し、ディスレクシアへの理解を広めました。また、20日には品川女子学院にてソープ氏の講演「マイストーリー」と31人の生徒と絵や色を楽しむためのワークショップ「マッケンジーの色の世界」を開きました。ソープ氏は今後も来日のたびにこのような講演やワークショップを行い、一人でも多くのディスレクシアや自信を失っている子ども達が生き生きとするきっかけを作れればと話していました。

なお、パーティーとレセプションの収益金の一部をディスレクシアの啓発のために充てさせていただきます。具体的には10月末に発行された「愈けてなんかない！」—ディスレクシア—読む・書く・記憶するのが困難な子どもたち（品川裕香著、岩崎書店）を、東京を中心とした教育委員会と港区の公立中小学校に寄贈させていただきます。

後援

日本LD学会、東京小児科医会、日英協会
 協力

品川女子学院、ホテル・オークラ
 ホテル・ニューグランド

ある生徒の思い出

神奈川県鎌倉市立大船小学校校長 竜田 孝則

もう一月ほど前のことになるだろうか、自宅の前を掃除していたとき、一人のバリッとした身なりのビジネスマン風の男から「先生」と声をかけられた。

「俺です。分かりますか」と言われても、さっぱり分からない。

「〇〇小学校でお世話になったAです」と言われて、まじまじと顔を見つめていると、やっとそのころの面影を見いだすことができた。

A君を担当したのは、もう20年も前のことであった。

ある日のこと、いつものように出席をとりながら子どもたちの間を歩いて健康観察をしていると、A君の近くで異臭がすることに気づいた。気になって、何度も近よって確かめた。やはり私の鼻に間違いはない。何かが腐ったようなにおいがする。しかし、A君の様子に特段変わったところは見受けられず、お漏らししたような様子もなかった。まさかA君に「お漏らししたのか」と聞くわけにもいかず困ってしまった。

注意深く観察すると、A君の机の横にかけてあるレジ袋が怪しい。中身が液体なのだ。

A君に断ってその袋を手にとってみると中身はやはり液体であった。怪しい。

中を覗き込んだとたん、強烈な異臭とこの世とも思われない地獄のような様相に思わずのけぞってしまった。袋の中は訳の分からないドロドロの異様な色をした液体で満たされており、その表面にはウジがヌメヌメとうごめいていた。くみ取り式のトイレに転落した友人を救出したときのことを思い出してしまい、思わず吐きそうになってしまった。

吐き気をこらえながらも、どこかのテレビドラマで聞いたことがあるような台詞を口走ってしまった。

「なんじゃ？これは！」

「あ！先週の調理実習のとき材料を持ってくるのを忘れたと思ったけど、ここにあった」

クラス全員がのけぞってしまった。そして大爆笑に包まれた。

なんでもかんでも、忘れてしまう才能に満ちあふれたA君を、迷惑に思いながらも、絶対に責めることのない子どもたちであった。

勉強でも漢字が特に苦手であったA君に、子どもたちは実に丁寧に接していた。まず、初見では書けないA君に対して「たてほうをひいて。次に真ん中あたりによこほうをひいて」と説明したり、手をもって教えたりと、私があきらめてしまっても丁寧に教えていた。

子どもたちから、いつもいつも教えられながら、やっこのことで担任を続けられていた私であった。子どもたちの

対応が私もA君に対する対応にゆとりを与えてくれたのだ。

今ではシステムエンジニアとして活躍しているA君は、今なら、どう診断されるのだろうか。

私の対応の基本は「人」である。担任がゆとりをもって、どんな子どもにも対応できるように、もう一人教員を学級に配置することである。しかし、現行制度のもとでは、これが最も難しいのである。

鎌倉市の「普通学級介助員」や県の「学級運営改善」制度、近隣の大学で教員を志望している学生の教育ボランティアなど、「人」を確保するために考えつくあらゆる方策をとっているのが現状である。

担任に精神的なゆとりを与え、どんな事態にもゆとりをもって対応できるようにすることが学級の子どもにもゆとりをもたせ、どんなことでも暖かにつつまこめる学級づくりにつながるのである。私は、そう確信している。



大船小学校の生徒のお母様から、ある日連絡がありました。是非LD疑似体験を受けたいと。その後、実際に疑似体験を受けられた後、学校の方でもやってみたいと言うお話になりました。学校から疑似体験を受けに来られると言うのでスタッフ一同準備してお待ちしていると、何と校長先生が来て下さいました。ご自身が養護学校の先生となされた経験から、いろいろなお話として下さいました。

10月4日(土)は大船小学校で講義と疑似体験で約90名の方々が参加して下さいました。御協力して下さいました先生、PTAの方々有り難うございました。

(EDGE 事務局)

「LD/DX 入門講座」の開催

5月31日、7月19日と、二回の「LD/DX 入門講座」を開催いたしました。どちらも募集人数は十名程度と少人数ではありますが、エッジのスタッフ一同、多大なエネルギーを費やして準備してきました。今まで、「LD 疑似体験」を実施して来ましたが、一般向けに「LD 概論」や「LD/DX 子育て体験談」も盛り込んで、1日かけての講座を開いたのは今年が初めてです。タイトルも“うまく付き合ってますか?こんな子どもたち”と、一般に呼びかけるように致しました。これは、アメリカの公立中学校で LD 教育に当たってきた石田博彰さんの協力に寄る所が大きく、私達は彼を中心に講座の内容作りに取り組みできました。エッジの理念に沿った、中心となるべき大切な活動と位置づけております。今までの参加者の中には、悩んでいる保護者のみならず、「自分はもしかしたらそうだったのではないか…」と思うところあって参加した方(成人)、あるいは「家族がそうなのでは…」と、不安を抱えて来られた方等、私達の予想を越えた様々の方の参加があって「講座の内容」

が、それぞれのニーズを満たすものだったか…。遣り甲斐と同時に、難しさも感じております。第一回第二回共に午前中は「LD/DX 概論」「LD 疑似体験」とほぼ講義に近いものを実施し、午後からは「体験談」をきっかけとして参加した方からも発言を頂きながら“皆で考え合う”形で内容を作って参りました。今までのところ、アンケート結果は、大旨好評で、私達も手応えを感じています。また講座が長時間に渡るので、第一回目には“根本先生のハーブティー”二回目には“野口さんのアロマセラピー”をブレイクタイムに取り入れてこちらも好評でした。特に二回目のアロマセラピーは参加者の野口さんの協力があって実現できました。ご報告と同時に礼申し上げます。次回は、11月15日の予定です。LD 疑似体験等、今までの基本を踏まえたうえで、さらに工夫を重ね、異なる視点も取り入れながら内容の濃い講座にしたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。(詳しくは5頁をご覧ください)

(長田)

アロマセラピーと発達障害

●野口 瑞穂●

最近の癒しブームにより、アロマセラピーが注目をあびていますが、アロマセラピーとはいったいなんでしょう?

アロマは“香り”セラピーは“療法”という意味がありますが、たかが香り・・・と侮ってはいけません。

植物から抽出される精油には、植物の持つさまざまな薬効成分があり、香りを嗅ぐことで、その薬効成分が気管を通過して肺に入り肺胞から血液に運ばれ全身の各器官に働きかけたり、直接脳に働きかけたりしてくれます。

今回は、私たちのテーマであるディスレクシアやAD/HDなどの、軽度発達障害の本人達が普段の生活で度々直面する様々なシーンに役立ってくれる精油をちょっとご紹介したいと思います。

物忘れや集中力が無くて困ったときには、頭脳明晰作用のあるペパーミントやローズマリー、カルダモンやバジル、マージョラムが役に立ってくれるでしょう。

精神的に興奮してパニックを起こしそうとき、起こしてしまったときに落ち着かせてくれるのは、ラベンダーを筆頭にイランイラン、オレンジ、カモミール、クラリーセージ、マージョラム、サンダルウッド、シダーウッド、メリッサなどの精油。

これらの精油は、眠れない夜にも手助けをしてくれることでしょう。

中枢神経系のなんらかの機能障害といわれている発達障害ですから、中枢神経系のバランスを整えてくれる精油も何らかの効果が期待できるのではないかと考えています。

グレープフルーツ、ラベンダー、ローズマリーなど。落ち着きが無く、行動過剰(自己抑制が取れずに衝動的な行動パターンを示す)、おしゃべりで困る人々には、マージョラムやサイプレスが役立ってくれることでしょう。

やる気が出ないとき、出したいときには、ジュニパーベリーやリツェアクベバガ力を貸してくれます。

香りの楽しみ方は様々です、市販の香りランプを使って部屋中に芳香したり、ティッシュやハンカチに一滴落として個人で楽しんだり。精油はひとつで複数の作用を併せ持っています、うまく使いこなせば、大変有益な物となってくれることでしょう。

香りの選び方は簡単、自分に必要な香りは自分に心地よい感情をもたらしてくれます。

是非、アロマの専門店に足を運び色々な香りをテストングしてみてください。

なお、発達障害の方で“てんかん”を併せ持っている方もいらっしゃるかもしれません。ローズマリーやペパーミントなどの刺激の強い精油は、てんかんや高血圧の方には不向きですので、使用を控えてください。他にも妊娠中には避けるべき精油などもございますので、購入時には専門家(専門店にはたいてい常駐しています)に相談してみてください。

注)マージョラム=スイートマージョラムを含む。

バジル=スイートバジルを含む。

アロマアドバイザー：野口 瑞穂

本の紹介

「怠けてなんかない!」

ディスレクシア—読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち

品川裕香著 256頁 1300円+税 岩崎書店

知能に問題がないのに読み書きができない「ディスレクシア」(読み書き、記憶が困難)という障害。親や教師はどう対応すべきなのか。症例と具体的な対応方法を紹介。

待望の、日本で初めて一般の方に読みやすいディスレクシアの本がやっと出ました。

「怠けてなんかない!」というのが世界共通のディスレクシアの人のつぶやきです。英語嫌いだから、帰国子女だから、遊んでばかりいるから、集中力がないから、はたまた親のしつけが悪いからといわれて来た子供たちの中に多く知能に問題がないのに読み書きが困難な子供たちがいます。彼らは忘れ

物が多く、漢字がなかなか覚えられない、読むのがたどたどしい、書くのが遅い、そんなことから友達や教師、そして一番の理解者であって欲しい保護者からも「怠け者」「ズボラ」「ブショウツレ」「変な子」と呼ばれたり、思われて、きつい思いをしています。子どもたちだけでなく大人になったからといって読み書きの困難さが解決されるわけではありません。ただ、軽度の場合は自分達でどうにか方法を見出して切り抜けているのが現状です。

本書では、前半は丹念な取材に基づいて興味本位ではないルポルタージュが書かれています。また、後半は保護者や教師の方たちそして一般のちょっと理解をしてくださっている方たち向けにどのような対応ができるかを書いてあります。誰一人としてまるっきり同じ症状の人はいないというのも世界共通していますが、そのことがこの本を読むとお分かりになると思います。親の一人として、そして自分も正式な診断は受けていないものの、多分ディスレクシアである私も、「そうそう、そうだったのよ」「あの頃この本があれば」とページをめくるたびに感じました。ぜひ、教師のかた、保護者のかた、そしてご本人(少しでも読みやすいように前半はルビが振ってあります)に読んでいただきたい一冊です。(藤堂)

ブックレット紹介

「みんな違ってみんないい」

品川裕香著、高山恵子監修 500円(税別)

ADHD(注意欠陥多動障害)について、その理解を進め、幅広い支援に精力的な活動をしているNPO法人「えじそんくらぶ」の高山恵子さんと、教育問題について真摯に取り組んできたフリーライター品の品川裕香さんが、このたび新たなブックレットを出しました。「みんな違ってみんないい」という、この小さな本のタイトルを目にした時、私はすぐに思い出しました。26歳で世を去った詩人、金子みすずの詩「私と小鳥と鈴と」の、最後の一篇です。

なかなか周囲の理解を得られず、学校では持て余され(悪い場合は、疎外され)、家庭では「悩みの種の子」として親たちが不安を募らせている、

そんなLD/ADHDの子どもたちを、まずは「責める」ことなく、「受け止めよう」という思いが、この本を貫いています。そこを起点に、いくつかの事例、混乱しがちな現実の中で、特別支援教育のあり方を模索している4地域での取り組みの紹介、さらに学童保育、塾の役割まで、小さな本ながら中味は目配りの行き届いた内容です。

第1章の高山さん、品川さんの対談も特別支援教育を問直しつつ、「教育そのもののあり方」にも言及していて、この本を更に魅力あるものにしていきます。どんな子も否定しない…という姿勢を持って初めて、さまざまな「試み」が生きるのだろう、と思います。表紙のタイトルは、そんなことを感じさせました。皆様、ぜひ一読ください。(長田)

お申し込みは <http://www.e-club.jp>

または、FAX:042-962-8683 NPO法人えじそんくらぶ 迄

掲載記事の紹介

- 1) LD&ADHD 2003年No.7 10月号 明治図書 1ページ
「建築家を目指すわが息子」エッセイ 藤堂栄子
- 2) 日本LD学会会報 第46号 2003年9月10日 15ページ
「<大人になったLD児からのメッセージ>

倫敦より愛を込めて ペンネーム NAO(男性)

- 3) DAILY YOMIURI 2003年9月9日に掲載されたマッケンジー・ソープ氏に関する記事が11月15日から「合格したい」ウェブサイトの英語の長文読解にです。

第3回 LD/OK入門講座

内容:LD疑似体験 コミュニケーションワークショップ～言葉や字だけではないんだよ～
質疑応答

日時:11月15日(土) 1:30～5:00

会場:みなとコミュニティハウス 電話:03-3796-3309

住所:東京都港区北青山1-6-3

都営北青山一丁目アパート 3号棟地下1階

交通:営団地下鉄銀座線、半蔵門線、都営大江戸線、青山一丁目駅
下車 徒歩6分

(地図が必要な方はFAXをお送りいたしますのでEDGE事務局までご連絡下さい)

参加費:会員 2500円 非会員 3000円

●お手数ですが、11月13日(木)までに下記の口座までお振り込みの上、事務局までご一報下さるようお願い致します。

振り込み先

銀行:東京三菱銀行 六本木支店 普通口座 1399190 NPO EDGE
郵便局:郵便振替口座 00190-2-86061 NPO EDGE

「教室の中の気になる子供たち」

私立千葉黎明高等学校教諭 根本明彦

私をはじめ持ったクラスにこんな生徒がいました。とにかく真面目。みんながサボリたがる掃除当番やゴミ捨てなどを快く引き受けてくれる。服装もお母さんの配慮がうかがえる折り目スッキリさわやか系。自己主張はしないし、話が上手なほどではないが、何気ない一言がオモシロイ。体育は苦手で、見た目はメガネをかけた痩せ型のガリ勉系のやや情けないタイプ。自宅のある新小岩からの通学時間は約2時間。でも3年間無遅刻・無欠席。プロレスが好きで全日本プロレス（ジャイアント馬場さんの大ファン！）のファン。仲のよい少人数の友人と一緒にいることが多く、ややもするとイジメられるタイプ。（しかし、本人のキャラのおかげかイジメられることはなかった。）そんな彼はクラスの誰よりも成績がふるいませんでした。

彼はABCのCの向きがうっかりすると逆になってしまうのです。また、bとdの瞬間的な区別が難しく、どんな教科でもノートをとる作業が圧倒的に遅いのです。作成したノートを見ると漢字のツクリとヘンが離れてしまえばっと見ると○×△で読み取れないし、ノートの線を見無視したクネクネ文字だったりするわけです。これがまた、一生懸命に書いたノートですからおっきなマルをつけてあげます。彼は休み時間ごとに職員室の私のところをのぞきにきて、声をかけられるとうれしそうに入ってきて隣の椅子にすわります。プロレスの雑誌を持ってきて何やら熱い説明を始めるのです。かわいくってしょうがありません。（そうそう、彼と日本武道館の輪島デビュー戦を前から3番目のリングサイドで見ました。えらくマニアックな古い話しです。あっ、その時トイレで怒涛のマイクパフォーマンスでおなじみのラッシャー木村さんと隣り合わせになりました。いい人でした。）美術部に所属していた彼は不思議な魅力のある絵を描いていました。「国技館」「高砂部屋」「五木ひろしショー」などという題の摩訶不思議な絵でした。アルミフォイルをグシャットしたのを広げて貼り付けたりするその作風は自然と微笑んでしまうようなワンダーランドでした。お父さんお母さん、特にお母さんはとても彼をかわいがっていましたが、何らかの理解の上で大きく、あせらず、無理に何かを身に付けさせようとはしていなかったように思えます。下町の方でしたから元気でとても正直な方でした。

そんな彼は卒業後、浅草の老舗の蕎麦屋さんに就職しました。どうやら今は立派な蕎麦打ち職人になっているようです。彼とは勉強も一緒にやったし、放課後の時間をずいぶん一緒に過ごしたものです。当時はディスレクシアや学習障害という言葉を知りませんでしたから、少しでも学習を進めるために同じことを何度も繰り返したりモノを使ったりしました。本校には一人一人の個性を尊重し伸ばしていこうとする考えが浸透していましたか



ら（今でも変わりませんが）、部活動の顧問の先生をはじめたくさんの先生方にかわいがっていただき、それなりに幸せだったのではないかと（一方的に）思っています。でも、今考えると、EDGEで勉強させていただいたいろいろな学習方法や精神的な関係の持ち方などのノウハウがあったなら、彼の生き方にもっと「勇気」や「誇り」、「らしさ」の彩を付け加えることができたような気がしています。（ちょっと大げさ？）また、そんなことを考えながら、これから出会うかもしれない個性にワクワクしてしまう自分がいたりします。

いったい全国にどれだけの「教室の中の気になる子供たち」がいるのでしょうか？六本木の事務所には毎日のように問い合わせの電話やメールがはいります。その雰囲気長い間背負ってきた悩みや不安の大きさ、深さを感じると同時に、つながりを求めてくれたことに対する小さな喜びが事務所を包みます。EDGEのスタッフはいつも頭が下がるほど親身になって対応していますが、考えてみれば、その一方で、そうやってアクセスしてくる機会を持ってないでいる人がたくさんいるに違いありません。たくさんの方々がつながりを持ってくれることで、ディスレクシアの理解が広がり、素敵な生き方ができるような成熟した社会になっていくことを祈らずにはられません。

六本木の事務所の半径300メートルには美味しいラーメン屋さんがたくさんあります。「天鳳」「風神」「空海」「天晴」「一蘭」「一風堂」。まだまだあるぞ、「紅虎」「福や」「千成」でしょ。それからベトナム料理、謎のインド料理、お勧めは無国籍料理？の「一億」など、六本木ヒルズよりオシャレ？でエキサイティング？な高感度グルメ？エリアですから、ランチのついでにEDGE事務所を訪ねてみたらいかがでしょうか？きっと足を運んでみて良かったなあとと思うに違いありません。それがまたひとつの積み木になってEDGEを支えていくことになるわけです。

理事の皆さんとEDGEのサポーターの皆さん、貴重な

体験をさせていただきましてありがとうございました。快く迎えてくださったばかりか、いつの間にかずいぶん前からスタッフだったような気にさせていただきました。学校に戻ってたくさんの子供たちをかわいがってあげたいと思っています。本当にありがとうございました。

ありがとう！ 根本先生

縄文クッキーの作り方から、縄文土器の作成の実演（こちらも夢中になって粘土をこねていました）、文化の謎など縄文の事を語らせたらみんな時を忘れてしまうほどです。千葉の市原から六本木のEDGEの事務所に2003年4月1日から9月末まで研修と言うことで千葉黎明高校から来ていただいていた。彼を慕ってEDGEを訪問する卒業生も多く、サッカーの話やプロレスの話に至るまで本当に守備範囲の広い先生でした。もちろん、ディスレクシアとは何か、どのように接したらよいのか、そう言えば過去にもそう言う生徒が居たなあ、等々。きちんと本来の研修目的であるディスレクシアに対する理解と教育支援についての勉強もしっかりとしながら、黎明高校で育てた緑を飾り、数々のポスターや掲示物を作成して、「疲れたなあ」と思えばハーブティーを振る舞って

下さり、持ち前の明るい性格でともすれば中学校の教室を使用している殺風景だった当事務局を、毎日が文化祭のような楽しいオフィスに変えて下さいました。

(藤堂)

千葉黎明高等学校

理事長 西村 清

「千葉黎明高校は本年で80周年を迎える男女共学、生徒教職員1000名の高等学校です。千葉県八街市：ピーナッツの産地として有名な人口7700名の田園都市にあり、純朴で明るい生徒たちが、みずほ銀行出身の安川校長のもと、「ちょっと厳しい躾教育」を受けながら毎日をエンジョイしています。入学式には青島健太さん（ニュースキャスター）が来校して、新入生と保護者に記念講演。今年の夏 長崎「ゆめ総体」では体育会アーチェリー部が男子団体全国制覇、関東大会常連校の空手道部は女子個人が全国三位。省エネカーを作成する工学部はジュニア部門優勝、吹奏楽部は日本で最初のスクールバンドとしての歴史を誇るなど元気な集団です。11月9日は学園祭です。生徒が作ったシクラメンや新鮮な野菜も超目玉。どうぞ明るくノビノビした黎明高校をよろしく。」

TIME 記事

2003年9月8日号で「Overcoming Dyslexia」ディスレクシアの克服と言う題で10ページにわたる特集が組まれた。

ディスレクシアの新しい科学と称して長年のなぞであった、どうして子どもによってこれほどに読み書きに困難を持つのが近頃の科学の発達により研究者の間で何が問題でどのように対応したらよいか解明され始めているという内容である。

ディスレクシアは英語圏では5人に一人はいるとも言われており、日本でも普通学級の5%の生徒に見られる。今までは怠けているなどの性格のせいとされてきたが脳科学が発達するにつれ、脳生理学に関連した研究により生物学的な問題であることがわかってきた。また、脳には損傷などないことも判明している。文字とその音を結び付ける作業がうまくいかないために起きることが科学的にわかってきた。例えば鏡文字は子どもの頃誰でも犯しがちな間違えだが、ディスレクシアの子はその頻度が多い。これまでの男子に多いという定説も否定している。男子の方が目立つだけであり、成長とともに軽減していく。多くの子は11歳から17歳でディスレクシアであると判明するが、それでは遅い。早期発見をしてきちんと教育することによって、発達できる読み能力が伸ばせるのである。

脳の配線が他と違うことで問題解決に長けている場合

が多い。立体的に考えることができるといわれ、一流のアーティスト、科学者や成功しているビジネスマンに多く見られるが、その反面、自殺を企てたり、いじめにあったり、不登校になることも多い。

アメリカには現在特別教育の教室に読むことが困難な生徒が3百万人いる。その多くはディスレクシアだろうが、他に行動の問題や教師が大教室で無視した結果読めないかもしれない。何らかの対策が講じられなければ自信が崩れてしまう。

アジアの漢字を使用する国々ではディスレクシアの発現率は少ないといわれている。アジアの研究者によるとこれは脳が漢字を処理する過程がアルファベットと違うからである。アジアのディスレクシアの人たちは診断されず、何の助けもないまま、生涯を敗者として暮らすことになりがちである。多くの場合欧米に留学して初めてディスレクシアであると診断される。

人類の歴史の中で言語が使われだしたのは5万年から10万年前からであるが読み書きが始まったのはたったの5千年である。まだ、人類の脳は文字に対応しきれていないのであろう。

(脳の生理学的な機能については <http://www.npo-edge.jp> に仮訳を掲載中)

このほか、簡単なチェックリスト、有名なディスレクシアな人、脳がいかに関与するか、何ができるかなどが掲載されている。また、アジア諸国についての記事が2ページに渡って紹介されている。

(藤堂)

『第16回知的障害者会』に出席して

8月24日、私は「第16回アジア知的障害者会議」の企画シンポジウム「軽度発達障害への教育的対応」において、邱紹春氏（台湾、台北大学）P.Singhi氏 P.Malhi氏（インド、小児科医）高山恵子代表（NPO えじそんくらぶ）と共に、発表の場に立たせていただきました。今年のこの会議は、SARDSの影響もあり海外からの出席者は減少。また24日は日曜日、しかも最終日の二日前ともかさなりあい、参加者の少なさが心配されました。しかし予想以上の参加者数で、LD・AD/HDそしてディスレクシアなどの軽度発達障害への関心も、広がりつつあることを感じました。今回のこの発表の場で私は、

- ・日本ではディスレクシアの存在そのものがまだ一般的に知られていない。
- ・教育現場では「勉強嫌い、怠け者」と言われている可能性が大きい。
- ・学校での集団指導では限界があること。
- ・英・米の様なアルファベット文化圏ではスペルと発音の関係に研究が集中している。
- ・「音韻意識」の問題が取り上げられるが、日本では表音文字（ひらがなカタカナ）と表意文字（漢字）を同時使用するという文化的相違がある。

など独自の研究が必要である事を述べました。

発表するにあたって、宇野彰先生（国立精神・神経センター精神保健研究所、知的障害部治療研究室室長）から「出現率のデータ」の発表を快諾頂き、加藤醇子先生（クリニック・かとう）からは「LD学会誌」での提言を引用させて頂く事が出来ました。専門家も参加している中でのお二人のご協力は、一民間団体所属の私としては何より心強いものでした。これからの日本の特別支援教育を考えていく上で政府と民間の協力体制作りは非常に大切なことになってくるでしょう。

ディスレクシアを含めて軽度発達障害への取組はやっと緒についたばかりです。エッジの社会的責任を、ますます痛感した次第です。

（長田）



EDGEで販売しています
マッケンジー・ソープ カレンダー
1000円(スタンド付き7枚)

マッケンジー・ソープ 絵葉書セット
600円(8枚)

2003年4月1日～10月31日活動報告

4月1日(水)	千葉黎明高等学校根本教諭、EDGEでの研修開始
4日(金)	EDGEスタッフ対象疑似体験
19日(土)	イートン校来日コンサート(日比谷公会堂)
22日(火)	LD 神奈川懇話会出席
25日(金)	ニュースレター発行
5月31日(土)	第1回LD/DX入門講座開催(みなとコミュニティハウス)
6月6日(金)	TKG 新人研修(月島区民館)
7月19日(土)	第2回LD/DX入門講座開催(みなとコミュニティハウス)
8月5日(火)	TKG 室長研修LD入門コース(月島区民館)
7日(木)	TKG 室長研修LD入門コース(月島区民館)
24日(日)	アジア知的障害者会議参加(つくば)
9月2日(火)	TKG 室長研修LD基礎講座(月島区民館)
4日(木)	TKG 室長研修LD基礎講座(月島区民館)
14日(日)	マッケンジー・ソープ絵画展(丸善日本橋)
～20日(土)	
16日(火)	TKG 室長研修LD基礎講座(月島区民館)
20日(土)	マッケンジー・ソープ絵画展(ホテルオークラ別館)
～27日(土)	
30日(火)	千葉黎明高等学校根本教諭EDGEでの研修終了。
10月4日(土)	神奈川県鎌倉市大船小学校LD講座及び疑似体験
13日(月)	学習個別ニーズフォーラム参加(日本教育会館)
19日(日)	子どもNPOフォーラム参加LD疑似体験(みなとNPOハウス)
25日(土)	国際セミナー参加(弘済会館)

予定表

(11月～12月)

月日	曜日	予 定
11月9日	日	英国DX事情視察
～15日		(国際交流基金助成事業)
15日	土	LD・DX入門コース(青山コミュニティハウス)
22～23日	土～日	日本LD学会出席(福岡県宗像市)
29日	土	吉野保育園講演(宮崎県宮崎市)
12月3日	水	LD疑似体験(千葉県市原市清水谷小学校)

Report from the EDGE - 第4号-

2003年11月13日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 長田政江 東京都港区六本木4-7-14

みなとNPOハウス4F

Tel.03-5413-3356 Fax.:03-5413-3358

編集 NPO法人EDGE事務局

印刷 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

e-mail:info@npo-edge.jp